

SOWER

ソア=種まく人
No.34
September 2009
財団法人
日本聖書協会

特集 プロテスタント宣教150年の道程 後編 大正改訳から宣教150周年記念大会まで



SOWER
ソア
No. 34

2009年9月1日発行
[年2回発行]

発行・財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451
振替 00160218410

目で知る聖書の世界を「プラス」した、はじめての新共同訳聖書

THE Bible+

バイブル・プラス

カラー
資料つき

新共同訳聖書(大型A5判・横組版)カラー資料つき



中学・高校・大学生の
聖書授業にもおすすめ。

カラー資料付聖書
2009年秋・発売(予定)

オールカラー128ページの
豊富な聖書資料をプラス。

バイブル・プラス

新共同訳聖書(青)
NI 43H-AP
A5判 ハードカバー クロス装
3,990円(税込)

新共同訳聖書/旧約続編つき(緑)
NI 43DCH-AP
A5判 ハードカバー クロス装
4,410円(税込)



創世記から始まるリアルな聖書の歴史と背景が
オールカラーの写真、イラスト、解説図を通して
全128ページにわたって分かりやすく学べます。

●主な本文カラーページ(前半)



[アブラハムと遊牧生活]



[ダビデ王]



[ユダヤの歴史]



[貨幣と度量衡]



主イエスの誕生から、パウロの伝道旅行に至る、
新約聖書のキリスト世界の広がりに加えて、
聖書と建築、美術、映画まで解説しています。

●主な本文カラーページ(後半)



[新約時代のエルサレム]



[パウロと旅]



[聖書と写本]



[美術における聖書]

本誌16ページで
詳しくご紹介しています!

■お求め、資料請求はお近くのキリスト教専門書店まで



財団法人
日本聖書協会
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451
http://www.bible.or.jp

携帯用のサイトです。



日本聖書協会は
「日本プロテスタント宣教
150周年記念」の働きに
賛同、協力しています。



ホームページからご注文いただけます(送料別途)

財団法人 日本聖書協会のホームページ
http://www.bible.or.jp

編集協力=雑誌編集工房
デザイン=株式会社 デザインコンビビア

印刷=株式会社 高速オフセット



エステル王妃の舞台スサ

イランの現地名シュースの町を見下ろす高台に、古代スサの町の遺跡が広がっています。ダレイオス一世が、古くからあった町に冬の宮殿を建設して再興し、その後をクセルクセス王（紀元前四八六―四六五年在位）が受け継ぎます。現在、遺跡には見るべきものはあまり残っていませんが、当時はベルセポリスと並び称される壮麗な宮殿があったようです。

クセルクセスの王妃となったエステルへのプライ名はハダツサ。熏り高い木「ミルトス」のこと。ちなみにペルシア名エステルは「星」の意味です。

ペルシア国中にいた離散の民ユダヤ人が皆殺しされるところをエステルによって救われた出来事を記念して、イスラエルではアダル（月二―三月）にプリムの祭りが行われます。「ハマンは自分の前でブルと呼ばれるくじを投げさせた」（エステル三・七）とあるブルはサイコロでしょう。この複数形がプリムです。

スサ遺跡には、人懐こいイランの男子学生たちのペルシア語が響いていました。町を望むと、預言者ダニエルの墓の尖塔が家並みの上に突き出ています。スサの歴史に想いをめぐらすひと時でした。

巻頭聖句

主よ、あなたの名声をわたしは聞きました。
主よ、わたしはあなたの御業に畏れを抱きます。
数年のうちにも、それを生き返らせ
数年のうちにも、それを示してください。
怒りのうちにも、憐れみを忘れないでください。

（ハバクク書3章2節）

中島秀一

なかしま しゅういち
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会 主管牧師

今年は日本プロテスタント宣教150周年の年です。わが国のキリスト者はいまだに1%未満にすぎません。何としてもこの壁を乗り越えたいと願います。ハバククは神の名声を聞き、御業を畏れる人でした。バビロニアの侵攻を予感した彼は、「数年のうちにも、それを生き返らせ……」と祈りました。この年が主を証する画期的な年となりますように、何をなすにも勝つて、神の憐れみに依り頼みつつ、ハバククの祈りを捧げる者でありたいと願います。

CONTENTS

SOWER No. 34 2009

- 2 ソア34号発行によせて
BS NEWS 渡部 信
- 3 特集
プロテスタント宣教
150年の道程
後編 大正改訳から宣教150周年記念大会まで
編集部
- 8 聖書セミナー⑩ 岩井健作
弱者に対する聖書の視点
- 10 人物と聖書⑩ 鈴木範久
吉野作造と聖書
- 12 エッセー⑩ 小坂叡華
宣教師魂
- 14 JBS情報
「日本プロテスタント宣教
150周年記念大会」報告、ほか
- 16 Bible Guide
THE Bible+
(バイブル・プラス カラー資料つき)、ほか
- 18 写真とみことば大募集!
あなたの写真にのせて、みことばを伝えます
- 19 2009年度「海外聖書製作支援」計画について
- 20 日本聖書協会 後援会にご入会ください!
- 21 聖書図書館蔵書シリーズ⑩
デンマーク語聖書
クリスティアンⅢ世聖書 1550年

表紙の言葉

開港150周年で賑わう横浜より、今回は「横浜海岸教会」です。その名の通り、海岸からとても近い場所にひっそりと厳かに鎮座しています。建物の脇には明るい光に照らされまばゆい緑に満ちた庭があり、初夏を鮮やかに彩っています。緑あふれる初夏の光が伝わればと思い描きました。（絵・文＝佐藤百合子）



プロテスタント宣教 150年の道程

後編 大正改訳から宣教150周年記念大会まで



今年7月9日に行われた宣教150周年記念式典



大正改訳『新約聖書』

編集部

プロテスタント宣教150年特集の後編は、大正改訳『新約聖書』から、今年の150周年記念大会に至る、約100年間の流れを取り上げました。

欧化主義とキリスト教学校の設立

1 明治中期から大正時代へ

一八五九年に来日した宣教師たちを中心として七四年に組織された聖書翻訳委員社中、次いで聖書翻訳出版常置委員会によって初めて旧新約全巻が日本語に訳され、明治訳聖書（文語訳）が八七年に完成した。この頃は、七一年の廃藩置県、七七年の西南戦争の終結により、明治政府の基盤は確たるものとなっていた。そして八〇年代、日本は欧米の技術を積極的に取り入れ、ほかのアジア諸国に先駆けて産業革命をなし遂げる。政府や世間一般にもキリスト教への好意的な風潮が醸成され、教会は人で溢れるようになった。それにはとりわけ、七二年の学制発布により義務教育が普及し始めたことが大きい。七〇年代には全国的にキリスト教学校が設立され、特に数多くの女子教育機関が開かれたのであった。

大正改訳『新約聖書』

明治訳は名訳として高く評価され、文学界など、日本人に広く親しまれた聖書だったが、時代が進むにつれ、国語の変化や聖書学の進歩により、改訂の声が上がるようになった。そこで

ソア34号発行に寄せて

ソア34号をお送りいたします。昨秋来、未曾有の世界的な経済危機に見舞われ、日本も多くの影響を受けましたが、読者の皆さまは主の導きの中でお過ごしのことと思います。また今年は、1858年に鎖国が解かれ、翌年に米国から3教団の宣教師が派遣されてから150年目に当たる年でもあります。日本聖書協会は、日本のプロテスタント宣教と深い関わりを持ちながら今日を迎えました。1835年、まず香港でギュッラフが最初に日本人漂流民の助けを得ながらヨハネ文書を翻訳し、37年にシンガポールで出版しました。その漂流民の1人の音吉は最初のプロテスタント信者になりました。次に1846年、琉球にベッテルハイムが英国海軍伝道会の宣教師として遣わされ、8年間の伝道活動の後、アメリカへ渡りましたが、1855年に香港で琉球語の福音書とその他の分冊聖書を出版しました。そして、開国後来日した宣教師たちの手によって1887年に文語訳旧新約聖書が完成し、日本人が聖書を初めて全巻読めるようになったのです。日本人が聖書を読めるようになってから122年目となります。日本のキリスト教会の150年の歴史を長いと捉えるか短いと捉えるか、さまざまな尺度があります。しかし、カトリックを含めて1万の教会と100万余の信徒数が与えられている現実を感謝し、次の世代に福音を継承してまいりたいと祈る次第です。



財団法人 日本聖書協会

総主事 渡部 信

BS NEWS

「コンゴ聖書協会へ日本車を寄贈しました」

渡部 信 日本聖書協会総主事
わたべ まこと

ち直り始めています。50%を超す人々がカトリック教徒で、貧しさの中でも、教会の礼拝を中心にした信仰生活を根づかせようとしています。



コンゴ聖書協会総主事と

識字教育シンポジウムの参加者たち



今年の5月にケニアのナイロビで聖書協会世界連盟の識字教育に関するシンポジウムが行われました。日本聖書協会では今までおもに、公用語の英語とフランス語の聖書をアフリカ諸国へ頒布して支援してきましたが、たとえばケニアでは人口の70%近くがクリスチャンでありながら、実際に聖書を読める人は少ないため、今後は、聖書の初歩的テキストを作成し、識字教育に取り組む必要があるとの方針転換が話し合われました。これはアフリカの他の国にも共通していて、文字の読める層から読めない層への「効果的で意味のある」聖書頒布を目指したものです。

日本聖書協会は支援国としてこのシンポジウムに参加した後、コンゴ民主共和国（旧ザイール）に寄り、聖書運搬用の日本車を寄贈しました。舗装された道が少ないため、ピックアップ・カーがいちばん便利だということです。長い内戦を経験したコンゴの人々は、今ようやく立

関係略年表

明治	1887	聖書翻訳出版常置委員会（文語）『旧約全書』完成
	1895	救世軍日本で開戦（伝道開始）
	1903	内村鑑三、非戦論展開／各派共通「さんびか」完成／日本YMCA同盟設立
	1905	日本YWCA設立
	1909	開教50年記念祝賀会開催
大正	1910	エジンバラ世界宣教会議開催
	1917	大正改訳『新約聖書』完成
	1920	第8回世界日曜学校大会、東京で開催
	1923	日本基督教連盟（NCC）結成
昭和	1929	賀川豊彦による「神の国運動」始まる
	1940	皇紀2600年奉祝全国基督教信徒大会／救世軍幹部検挙
	1941	日本基督教団成立
	1942	日本基督教団戦時布教方針決定
	1943	救世軍／ホーリネス系諸教会弾圧により解散
	1945	第二次大戦終結直後米国キリスト教使節来日
	1948	日本キリスト教協議会（NCC）設立
	1950	ラクーア伝道開始
	1951	日本福音連盟結成
	1954	新『讃美歌』完成
	1955	『口語訳聖書』完成
	1956	ビリー・グラハム来日、第1回伝道大会開催
	1959	日本キリスト教宣教100年記念大会、大阪クリスチャンクルセード開催
	1961	東京クリスチャンクルセード開催
	1962	第二バチカン公会議（～1965）
	1967	日本基督教団、第二次大戦下における責任の告白を総会議長名で発表
	1968	日本福音同盟（JEA）設立
平成	1970	日本万博博覧会キリスト教館出展／『新改訳聖書』完成
	1980	ビリー・グラハム来日、各地で国際大会開催
	1987	『聖書 新共同訳』完成
	1996	日本リバイバル同盟（NRA）設立
	2000	東京大聖書展開催（死海写本アジア初公開）
	2009	日本プロテスタント宣教150周年記念大会開催



皇紀2600年奉祝全国基督教信徒大会にて教会合同を宣言（青山学院）



賀川豊彦

「目で見える宣教100年史」より



山室軍平



内村鑑三



関東大震災で崩れ落ちた横浜指路教会（ヘボン記念会堂）「目で見える宣教100年史」より

一九〇七年、改訳作業を進め、一〇年後の一七年、大正改訳『新約聖書』が完成に至った。明治訳がほぼ全面的に海外の宣教師主導で進められたのとは異なり、大正改訳では初めから日本人翻訳委員が選ばれていることが画期的であった。

植民地主義と自由民権運動の時代へ

その当時の日本では一八七三年に太陽暦が採用されるなど、国民生活や意識にも大きな変化が生まれていた。八九年には大日本帝国憲法発布、その翌年には帝国議会が開設され、明治中期は、法制度や近代水道や全国鉄道網など、社会基盤の整備によって近代国家の形成が急ピッチで進んでいく。同時に、日本は世界の中での存在感を増し、欧州列強に遅れまいと、朝鮮、中国などに植民地獲得の手を伸ばしていく。そして日清戦争、日露戦争などの対外戦争の勝利により、国民の意識の中に次第にアジア諸外国への優越感と差別意識が植えつけられていく。日露戦争に先駆けては内村鑑三が非戦論を展開し、平和主義を唱えてキリスト者としての存在感を示した。しかしナショナリズムの高まりによってそれも抑え込まれてしまった。

ただ、救世軍の街頭募金活動（社会鍋）、娼婦運動、女性の地位向上を目指す働きが見られるなど、現在の社会運動と福祉活動の基礎が形作られたのもこの頃であった。

日本基督教団の成立と教会弾圧

しかし、一九三〇年代は経済状況も逼迫し、キリスト教界への統制の圧力はさらに強まっていた。政治、経済分野でも同様で、三二年の五・一五事件や三六年の二・二六事件など、軍部の暴走が暗く世を覆う。三一年に満州事変勃発、三三年には日本は国際連盟を脱退して国際社会での孤立を深め、世界戦争へと突入していく。三九年には宗教団体法が制定され、教会は軍国主義統制下に置かれた。

日本基督教連盟は米国への接触をはかり、国際親善の試みを行うも不調に終わり、軍部の圧力はいっそう激しさを増した。そこで一九四一年六月、三三教派代表が東京・富士見町教会に

大正デモクラシーとキリスト教社会運動

一九〇九年一〇月、全国の諸教会の協力によって東京基督教青年会館において「開教五〇周年記念園遊会」が開かれた。

そして、一九一二年、明治天皇の崩御とともに大正天皇が即位し、大正時代に入ってすぐの一四年、第一次世界大戦が始まる。日本経済は好景気となり、大正デモクラシーの機運が形成されていく。しかし一九二三年九月一日、相模湾を震源とする大地震、いわゆる関東大震災が起こり、横浜全域と東京の大半が灰燼に帰した。

2 軍国主義から第二次世界大戦へ

世界恐慌と神の国運動

その痛手も癒えぬうちに迎えた昭和初期、一九二九年のニューヨークでの株価暴落を発端とする世界恐慌に見舞われる。社会不安に煽られ、農村では右翼革命の思想、都市では共産主義思想が盛んになった。そのため、キリスト教に対しても圧迫が加えられるようになる。その一方で、同年、日本基督教連盟は、賀川豊彦を中心とした伝道活動「神の国運動」を日本全国だけでなく、朝鮮、台湾、満州にまで展開したところ、各地の集会はいへんな盛況ぶりであった。

集い、総会決議によって日本基督教団が成立した。合同に応じなかったのは聖公会やホーリネス系教会の一部であったが、これらの教会に対しては厳しい弾圧が加えられ、獄死した教職者も少なからずあった。

一九四二年のミッドウエー海戦での大敗以来、日本軍は各地で敗退し、沖縄での地上戦、広島、長崎への原爆投下を経て、四五年八月、無条件降伏によって戦争が幕を閉じるまで、日本のキリスト教界にとってもきわめて苦難の時代が長く続いたのであった。

3 戦後復興の歩み

アメリカから贈られた新約聖書

国土が焦土と化し、人々が精神的支柱を失って茫然とする中、全米の教会代表が来日して被害状況を視察し、救済のための支援を呼びかけた。それに助けられて、多くの教会、学校の復興がなされている。さらに全米の教会では、日本へ聖書を贈る募金運動が展開され、米国聖書協会が印刷した文語訳新約ほか、計七〇〇万冊もの聖書が贈られた。

戦後復興と『口語訳聖書』の完成

教会の復興が進み、戦後のキリスト教ブームによって、教会に多くの人が集う中、戦争で中

日本キリスト教協議会
が招聘した世界的伝道
者ビリー・グラハム



宣教100年記念大会
（東京都体育館）

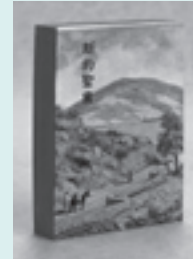


口語訳聖書
翻訳委員会

東京・銀座教会
（旧会堂）で『口
語訳聖』書完成感
謝式典が開かれた



戦後、聖書普及員
（コルポーター）に
よって全国に聖書
が広く頒布された



日本へ聖書を贈るため
米国民3万8000人が
名を連ねた芳名帳「グッ
ド・ウィル・ブック」



グッド・ウィル・ブックにサイン
するトルーマン米大統領

贈呈された絵表紙の
新約聖書

5 まとめ

宣教一五〇周年記念大会から 宣教二〇〇年に向けて

二〇〇九年七月八、九日、開国の舞台の一つとなった横浜の地で「日本プロテスタント宣教一五〇周年記念大会」が開催された。NCC系とJEA系、また日本リバイバル同盟（NRA）などの聖霊派、そして数多くの単立教会も共に賛美と祈りの声を合わせたことは画期的であった。前夜の七日に開かれた晩餐会も含め、延べ

宣教一〇〇年に向けた大祈禱会
（東京・大丸）



万博キリスト教館200万人
目の来館者には聖書が贈ら
れた



カトリック、プロテスタン
ト初の共同翻訳となった
『聖書 新共同訳』



れた。

福音派、聖霊派の成長

その後、多くが戦後に開拓された福音派教会が伸張し、一九六八年には日本福音同盟（JEA）が結成された。また、『口語訳聖書』に対し、『新改訳聖書』（日本聖書刊行会）が七〇年に発行され、多くの福音派教会で用いられている。現在では聖霊派教会が若者を中心に成長著しい。しかし伝統的な教派、教会は、高齢化と教職者の不足という大きな課題を抱えている。

4 エキュメニズムの高まりと『聖書 新共同訳』

一方、カトリック教会では、一九六二年、ローマ教皇ヨハネ二三世が第二バチカン公会議を開き、教会の現代化を推し進めた。一六世紀の宗教改革以降、カトリックとプロテスタントは別々の道を歩んできたが、この公会議によって、カトリック教会の枠内にとどまらず、プロテスタント諸教会にも、世界的な和解と一致への気運が高まった。そうした中でカトリック、プロテスタント共同での聖書翻訳事業が起こされ、一八年間の翻訳期間を経て、八七年に『聖書 新共同訳』が完成し、現在、国内で最も広く読まれる聖書として普及している。

一万六〇〇〇人が集い、信仰の未来への継承を誓い合った（本誌一四、五頁に報告記事）。

本稿後編では、激動のプロテスタント史のみならず、関係の深い日本史全般も含め、大まかに振り返った。

戦後六四年を経過した今、時代はきわめて流動的かつ不安定な様相を呈している。しかしなお、その歴史の背後には必ず主なる神の恵みの支配が及んでいる。今、果たすべき責任は何か、私たちの誰もが自問し、答えを探すべきなのだろう。

弱者に対する 聖書の視点

アモス、マルコ、ヤコブ、
小磯良平のルツ、聖書の読み方

岩井健作

いわい けんさく

日本基督教団神戸教会前牧師



聖書セミナーの依頼にこたえて

神戸バイブル・ハウス主催の第三七回「聖書セミナー」の担当にあたっては、ちょっとしたエピソードがある。

昨年一月末、第九回、日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議に「日本キリスト教婦人矯風会」から出席した私の連れ合いの溢子が会場で「久しぶりにお会いした」というのが、神戸でこの問題に取り組んでいる岩村義雄牧師だった。しばらくして、これがきっかけで電話をいただいた。同牧師とは、かつて神戸で一緒に「神戸聖書展」に取り組んだ仲だ。「神戸バイブル・ハウス常務理事」だという。二〇〇九年一月に三日間五講義（二〇時間）の聖書セミナーのために時間を作ってほしいという。テーマは「弱者の視点」、ビラを作らねばならないからすぐに思い浮かぶ題を、との重ねての依頼だった。

とっさに、第一回はアモス。第二回はマルコ。第三回はヤコブ。ここまでは説教で扱ったことがある。そこでちょっと詰まった。その時、日本聖書協会が久し振りに出版した『小磯良平聖画入り聖書』のそれぞれの絵について講話をしていたのを思い出した。ルツの「落ち穂拾い」は使える、あれは社会の

セーフティネットだ。そして最後は「聖書の読み方」とした。読み方には、徹底して「貧しくされた者」の視点で聖書を読んでいるサンパウロの「ペルボ聖書センター」のことが念頭にあった。

この間、ほんのわずかな電話のやりとりであった。降って湧いたような「セミナー」の輪郭ができた。神戸は二四年間、私が宣教と牧会に携わった地、支援してくださる方々もそれなりにあり、無事この務めを終えることができた。岩村牧師からは「お褒めと感謝」と、おまけに本誌への執筆推薦をいただき、全国の『SOWER』読者との文章を通してのお交わりに与ることになった。

一介の田舎人アモス

さて、本題に入る。第一回、アモス。イスラエル民族の王国形成までは、生産物を分かち合い、部族連合としての共同生活が営まれていた。王政以後、王・貴族・軍人など権力者を農民が年貢と過酷な税で支える構造に変化して、農民は徹底して虐げられてゆく。司法は機能しない。「正しい者を金で、貧しい者を靴一足の値で売ったからだ」（アモス二・六）。そこに「一介の田舎人」（浅野順一『予言者の研究』新教出版社）預言者アモスが、王と

この物語には通奏低音のように「主の慈しみ（ヘセッド）」が示される。それはまた弱者への聖書の視点である。

弱者の視点から聖書を読む

第五回目。「聖書の読み方への提言」。教会では「神学的解釈」（「信仰告白」を基準として読む）が中心になるが、それをかなり相対化する素養と勇気が現代には必要であろう。「聖書学的解釈」を基本的な身につけることは、歴史を生きる者の豊かさになる。「文学的解釈」。これは、聖書テキストを自分の経験との呼応関係で響かせる修練である。この三様の読み方を超えてさらに、弱者の叫びにこたえる神を見出す読み方に目を留めたい。中の瀬重之神父（司祭、真言会、ペルボ聖書センター所長）は聖書を、「○の神と△の神」の拮抗する歴史の記録として捉える。貧しい弱者である民衆が息づくことができるのは、○の神である。極貧のラテンアメリカの民衆の学びに、中産階級が主流の日本の教会は耳を傾けねばならない。

※本稿は、二〇〇九年一月にクリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスで開かれた「第37回聖書セミナー」の講義内容をもとに、全体のまとめとして執筆記した。

マルコにおける個への関心

貴族、御用祭司に向かって叫びをあげる。「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」（五・二四）。アモスの働きは、木田献一『イスラエル予言者の職務と文学』（日本基督教団出版局）の研究によく示されている。生活を破壊された層の痛みに合わせて聖書を読むなら、アモスは欠かせない。

第二回はマルコ。元来、本書の成立は、ガラリヤの辺境の貧しく病める人々の伝えた民衆の伝承を集めたものによる（田川建三『原始キリスト教史の「断面」勁草書房』。さらに治癒奇跡物語伝承をマルコに見ると、伝承の新しい

ヤコブの手紙とルツの落ち穂拾い

第三回目はヤコブ。パウロの「信仰義認論」が金持ちの自己正当化に用いられ、その当時の教会では貧しい者を軽んじる論理として作用したことへの批判の書簡である。「富んでいる者は草花のように滅び去る」（一・一〇）。参考書は辻学『ヤコブの手紙』（新教出版社）。第四回目。小磯良平さんの聖書挿絵の中で「ボアズの畑で落ち穂を拾うルツ」は、ルツ記第二章一二三節を描いている。「落ち穂拾い」は、寡婦の社会的地位を支える社会法の意味がある。その枠の中で、地主ボアズと、差別的目で見られていた「モアブの娘」（この表現には差別がある。荒井英子「ルツ記」『新共同訳旧約聖書略解』日本基督教団出版局）は出会う。

大正デモクラシーの精神

吉野作造と聖書

鈴木範久

すずきのりひさ 立教大学名誉教授

かなり以前から心にかけていた吉野作造記念館訪問を、今春、ようやく実現させることができた。訪問のきっかけは、同館に吉野の所持していた聖書が収められていることを知ったためである。記念館は吉野の生誕地、宮城県大崎市にある。田中館長の気遣いで、窓から外の景色がよく見える位置に座って聖書を手にとることができた。桜の花の見ごろにあたり、時折吹く風につけて花びらが、ひとひら、ふたひらと舞う眺めは、いつまでも鮮やかに記憶に残るにちがいない。

デモクラシーとキリスト教

一八七八（明治一二）年、現在の大崎市古川に生まれた吉野は、仙台の第二高等学校に在学中、尚綱女学校の校長ブゼル（Annie

S. Buzzell）の開いていた聖書研究会に参加、翌年、仙台浸礼教会で受洗。東京帝国大学に入学すると、近くの本郷教会に出席して海老名弾正牧師の影響を受ける。

大学卒業後、袁世凱の子どもの家庭教師として中国に渡り、三年間、天津で過ごす。一九〇九（明治四二）年、帰国して東京帝国大学法科大学助教授に就き、まもなく欧米に留学。一九一三年に帰国し教授に就任。一九一六年、大正デモクラシーを代表する論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を『中央公論』に発表する。以下、その後の朝日新聞時代も通じた顕著な活動はよく知られている。

吉野のデモクラシー論におけるキリスト教との関係は、みずから記した「デモクラシーと基督教」（『新人』二〇巻三号、一九一九



年三月一日）に明らかである。吉野によれば「デモクラシーの本質」は「人格主義」であり、「人格主義」とは「吾々は総ての人類を神の子として総ての人類に一個の神聖を認め、固く基督に結んで居る」ことである。

したがってデモクラシーの普及はキリスト教の普及と不即不離とみなす。

聖書につけられた印

吉野の所持していた聖書は、「大正三年一月八日」に米国聖書会社が刊行した小型の『新約聖書』である。ただし「大正九年四月」に二万部増刷されたものでありながら、訳

文は、一九一七（大正六）年に刊行された改訳（いわゆる大正改訳）でなく旧委員会訳である。

内容を見ると、書き込みはないが、かわりにマタイ伝九箇所、マルコ伝一箇所、ルカ伝三箇所の上部に、黒鉛筆と赤鉛筆とを用いた丸印と傍線（一箇所のみ）が認められる。丸印には二重丸のものもある。

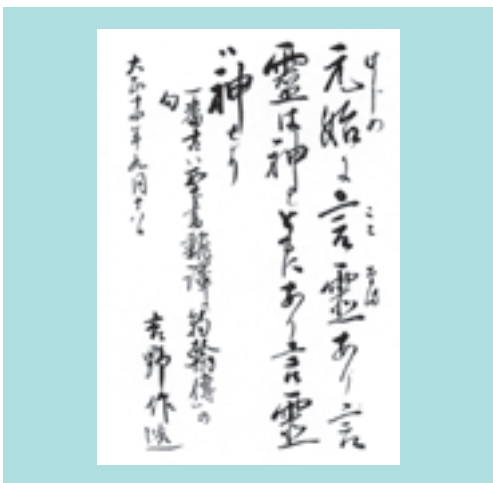
ここでは全部紹介することはできないが、最初の黒鉛筆による丸印は、マタイ伝五章の四、五節の上部に付されている。特定の聖句というよりは、いわゆる「山上の垂訓」の「八福」にあたる部分に対するものとみられる。また、マタイ伝七

章一七節の「善樹は善果を結び悪樹は悪果を結べり」をはじめ、それと類似の一章三三節、ルカ伝の一三章にも印が付されている。これらは倫理的な性格の強い文章である。

そのなかにあつて、最後のルカ伝一五章に付されている部分は、例の九九匹と失せたる一匹の羊の話のところにあたる。吉野は、ほかでも「神は九十九の健全なる羊よりも失はれた一頭

の仔羊を特に心配なさるのである」（『社会改造問題と基督教』、『開拓者』二〇巻一号、一九二五年二月一日）と語っている。

また、同記念館には、太田雅夫氏によりハワイのマキキ聖城教会で発見された吉野の色紙のコピーがあつた。それには、ヘボンおよびブラウン訳による『新約聖書約翰伝』（一八七二年）の冒頭の言葉「元始に言霊あり言霊は神とともにあり言霊は神なり」が書かれている。晩年、明治文化研究に携わった吉野のことだから、手持ちの同書から引いたにちがいない。吉野も「言霊（ことたま）」の訳は捨てがたかったのだろうか。



宣教師魂

小坂叡華

エッセー

31

七月に開催された日本プロテスタント宣教一五〇周年記念大会では、企画・制作委員長という重責を担うことになりました。そこで、一五〇年間を何らかの方法で検証し、それを土台に、人口のパーセントにも満たない日本のクリスチャンの現状を認識・分析し、その結果を将来の宣教への希望につなげて継承していくというテーマが祈りのうちに与えられました。大会宣伝用の歴史DVDを見た時、宣教の歴史ビデオを当日会場に来た人々全員に見ていただきたいという思いが生まれました。なぜなら、キリスト教が日本の文化・教育・医療・社会事業にどれほど影響を与えたかという事実を多くの若いクリスチャンは知らないからです。まず、現代のキリスト教界やクリスチャンが日本宣教の歴史を知ることによって、クリスチャン信仰に自信を取り戻し、宣教の大きな励みになるのではないかと期待を持ったのです。

記録委員会は、日本プロテスタントの歴史に忠実な映像や資料を、たいへん苦勞をされて集め、構成案を作りました。神学者を交えて、何度も検証を重ねていただきました。それに加えて私は、プロテスタント宣教よりも三二〇年も前に日本に到来したカトリック宣教師のことも検証しなければならぬと考えました。そうでないと、日本のキリスト教信仰は語れないからです。実行委員会に提案し、承認を得てから、カトリック中央協議会の広報室を通して映像や台本へのコメントをいただくことができました。この二種類のDVDは、他のプログラムとの関係上、一五分程度にまとめられて、開会礼拝と記念式典で映写されました。

映像の編集をしている中で、私は、各国から派遣された宣教師の命がけの働きにつくづく魅せられてしまいました。故郷を離れて異国の地へ、長く危険な旅を厭わず、言葉も食べ物も住む家も自国とは比べものにならない場所に入っていくことの不安は想像を超えます。何人かの宣教師は寺に居を構えたと記録されています。寒く、不自由もあったでしょう。また、迫害や誤解もあったと想

像できます。しかし、彼らの心は熱かったのです。

私が夫（小坂忠牧師）と共に牧会している秋津の教会を開拓したのも、アメリカからの宣教師でした。二〇代の若い女性宣教師は、戦後すぐに中国宣教へと召されて母国を旅立ちました。しかし、共産化した中国から追い出されて日本へとやって来られたのです。その心が挫けなかったのは、主への愛と燃える使命があったからだと思います。初めは、戦後の荒廃した日本の子どもたちへの福音の種撒きだったそうで、二〇〇人近い子どもたちの写真が残っています。

カトリック宣教はおよそ四六〇年前に始まりましたが、日本のプロテスタント宣教は、一八三七年のギョウツラフ、音吉の乗ったモリソン号砲撃事件が皮切りとなり、一八四六年には琉球に、そして一八五九年には横浜をはじめ五港が開港され、同時に聖公会、改革派教会、長老教会による超教派の伝道が始まりました。大学設立や医療、ヘボン宣教師たちによる聖書翻訳、また、多くの宣教師によって文書伝道、賛美歌伝道などが日本の文化の底流を築いていきました。彼らの働きはただ苦難の道というだけではなく、きつとロマンと情熱に溢れていたでしょう。それを思うと、時を超えて胸が躍ります。

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける」（イザヤ四三・一九、新改訳）。

「新しい事」とは、荒れた地に道をつけ、川の水を引くことです。人の引いたレールの上を走るのではなく、人の建てた建物を守るのでもない。荒地に新しい道を設けるというクリスチャンの情熱、つまり歴史を変えた宣教師魂が日本のさまざまな扉を開いたのです。この宣教師魂がこれからの日本宣教にはもっと必要だと思えます。私と夫は牧会と並行して三一年間、音楽ミニストリー（ミクナム・ミニストリー）を続けてきました。その仕事はまさに荒野に道を設けるような働きでした。今もなお、固い地面に鋤を振るっています。しかし、ここまで続けてこられたのは、プロテスタント宣教をもたらし、日本を愛し、神の国の実現を夢見続けた宣教師魂を忘れないことによってでした。そしてこれからも、主の助けをいただきながら、この宣教師魂（バイオニアリング・スピリット）を次世代に継承したいと思えます。この大会の奉仕を通して得た大きな恵みでした。



小坂叡華（こさか えいか）
日本フォースクエア福音教団理事財務局長
秋津福音教会牧師
ミクナム・ミニストリー&レコーズ代表取締役



日本プロテスタント 宣教150周年 記念大会 結果報告



7月8日、9日にパシフィコ横浜において「日本プロテスタント宣教150周年記念大会」が多くの教派、教会、学校、団体のご賛同、ご協力を得て開催されました。日本聖書協会も渡部総主事を事務局長とし、実行委員会事務局としてその一翼を担ってまいりました。

「キリストにあってひとつ——主イエスの証し人として」をスローガンとして掲げ、当初の予想を上回る約16,000人の参加者が与えられ、主のご栄光を現すことができました。

大会1日目のフェスティバルでは、ダンス、パフォーマンス、演劇など、さまざまなかたちで賛美がなされました。引き続き、神様のご臨在を感じる中で開会礼拝をささげました。

大会2日目の午前中は、厳かな雰囲気の中で記念式典を執り行い、各派を代表する3人の実行委員長に導かれて、参加者一同が一緒に大会宣言・声明文を読み上げました。午後は、将来の教会形成、学校教育を主題とした基調講演で、講師の経験に基づく貴重な話を聞くことができ、またさまざまな分野を代表するパネリストとの意見交換がなされました。その後、社会に遣わされて使命を果たしていくという思いを込めて派遣礼拝をささげ、2日間の大会を締めくくりました。

今回3つのグループを中心として記念大会を開催できたことは、150年の歴史に大きな一歩をしたことであり、今後、日本における伝道を進めていく上できわめて有意義でした。



久米小百合氏
(日本聖書協会親善大使)の賛美



大会実行委員長3名による大会宣言(左から峯野龍弘師、山北宣久師、大川従道師)



米国聖公会、長老派、改革派など、最初期に宣教師を日本に派遣した教会代表やアジア各国から多くの来賓が参列



派遣礼拝で大会を総括する渡部信事務局長

聖書と音楽の出会い・名古屋



日時：10月9日(金)
午後6時半～8時半終了予定

会場：テレビアホール(東海テレビ)

内容：ジョン・チャヌ氏(ヴァイオリニスト)ミニコンサート
聖書協会活動紹介

※入場無料
※事前の申込みにご協力ください。

お申込みは、webページ <http://www.bible.or.jp/soc/soc16.html> から専用フォームにてまたは、チラシ裏面にご記入の上、03-3567-4451までFAXしてください。
締切り 9月28日(月)

予告

聖書と音楽の出会い2010



2010年は岡山・新潟・大分・沖縄などで開催予定です。
詳しくは随時webページ、メールマガジンなどでお伝えいたします。



2009年千葉での様子

特製革カバー入り

新共同訳ミニ判聖書 (バイブルキューブ)

日本プロテスタント宣教150周年記念限定販売

革カバーにはエコレザーを採用。
この革は、土に戻すことができる地球環境にやさしい素材です。
使い込むほどに独特の深い味わいのある色合いになります。

好評
発売中

150年間にわたる伝道のスピリットがこめられた、一番小さな聖書、バイブルキューブ。
今回は記念にふさわしい革カバー入りで登場です。
カバー内部にはペンさしや、カードポケットがつき、携帯にとっても便利な1冊に。
末永くお使いいただけます。

NI 34青・革カバー入り
限定数250NI 34赤・革カバー入り
限定数250

定価10,500円 (税込)
天地128×左右91mm (本体)

旧約聖書編 第2弾、発売まぢか

みんなの聖書
マンガシリーズ・旧約聖書編

第4巻「王国 (キングダム)
～国を建てし者たち～」
いよいよ10月、発売です。

*このマンガ聖書シリーズは、『聖書 新共同訳』に準拠し、聖書に忠実な内容を保ちながら、マンガというメディアに相応しい表現を取り入れました。(日本聖書協会 翻訳部)

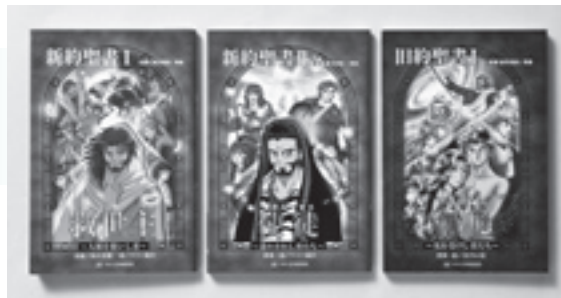
日本のマンガは、世界中にそのファンを増やし、大きな影響を与えています。
まだ聖書にふれていない若い世代に、マンガ聖書をプレゼントして福音を伝えてみませんか。

第3巻「創世 (ジェネシス) ～光を受けし者たち～」 好評発売中
(『聖書 新共同訳』準拠) あずみ 絵

新約聖書編全2巻も好評発売中。

第1巻「救世主 (メシア) ～人類を救いし者～」
第2巻「使徒 (アポストロス) ～遣わされし者たち～」

みんなの聖書・マンガシリーズ
天地210×左右140mm
各巻 1,050円 (税込)



THE Bible+ バイブル・プラス

カラー
資料つき2009年11月
発売 (予定)

新共同訳聖書 (大型A5判・横組版) カラー資料つき



新共同訳聖書/旧約続編つき
NI 43DCH-AP
A5判 4,410円 (税込)

新共同訳聖書
NI 43H-AP
A5判 3,990円 (税込)

中学・高校・大学生の聖書授業におすすめの
カラー資料つき聖書ができました。
オールカラー128ページの
豊富な聖書資料をプラスした、
初めての新共同訳聖書です。

②どこを開いても興味が湧くように、
ひとつひとつの聖書の記事を見開きごとに編集しています。
膨大な聖書の世界に親しめるように
インデックスを活用しながら興味深く学べます。

③同じサイズの縦型聖書に比べ
厚さが約半分です。
中型聖書 (B6判) と比較しても
カラー資料つきで、約半分の厚さです。

①オールカラー128ページの
資料が聖書の世界をリアルに再現します。
カラー資料を加えた、初めての
新共同訳聖書です。

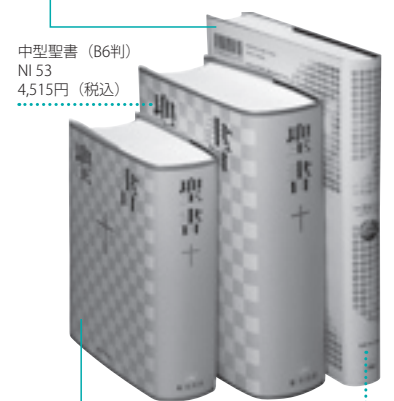
④この1冊で聖書が
興味深く学べます。
従来の補助教材が
不要です。
聖書の学習に必要な補助
教材の内容を充分に考慮
して1冊にまとめたので、
無駄なく効果的に授業が
行えます。

聖書本文は
1ページ横2段組み



※聖書の画像は
制作中のものです。

聖書授業に
おすすめする
5つの理由を
ご紹介します。



小型聖書 (A6判)
NI 44
3,150円 (税込)

バイブル・プラス
大型聖書 (A5判)
NI 43H-AP
3,990円 (税込)

⑤ベストセラーの小型・
中型聖書に比べても
お求めやすい価格を
実現しました。
特に学校で使用する聖書を
考慮して、必要な教材として
の価格に設定しています。

2009年度「海外聖書製作支援」計画について

皆さまのご献金に支えられて、今年度は以下のとおりの支援を行う予定です。

海外プログラム支援総額 **250,000USドル**

✚ UBS (聖書協会世界連盟) を通じて資金援助するプログラム		
国／地域	内容	金額 (US\$)
カンボジア	現地教会への聖書頒布支援 現地の教会の必要に応え、聖書、子供聖書、音声聖書、聖書選集など6万冊以上を頒布します。	\$39,245
クロアチア	プロテスタント教会への聖書頒布 特に経済的に貧しい教会に対し、聖書を無料頒布します。	\$6,360
コンゴ民主共和国	遠隔地への聖書頒布支援 国土が広く、また交通機関が発達していない現状で、遠隔地への聖書頒布は大きな支援を必要としています。頒布活動のための大型自動車を購入します。	\$27,500
ネパール	音声聖書の頒布 識字率の低い地域では、音声聖書は大きな役割を果たします。180セットの音声新約聖書を全国に頒布します。	\$12,050
バングラデシュ	翻訳プログラムの支援 共通語スタディバイブルの翻訳のほか、4つの現地語への聖書翻訳、タジ語スタディバイブルの翻訳などを進めます。	\$27,693
ベトナム	若者への聖書頒布 宗教が理解されない政治情勢のもとでも、教会は若い世代に信仰を伝えるために粘り強く活動しています。	\$20,000
南太平洋諸島	現地語への聖書翻訳支援 小さな島国が集まっているこの地域には、数百もの現地語が存在します。バヌアツとソロモン諸島の言語を中心に聖書翻訳を進めます。	\$20,000
ミャンマー	現地聖書協会の運営支援 長く軍事政権が続き、厳しい監視を受けながらも聖書頒布に励むミャンマーの聖書協会を支援します。	\$25,000
ラオス	ラオ語聖書の改訂 共通語であるラオ語聖書の改訂作業を進めています。2006年から進められているこの事業は、2010年完成を目指しています。	\$9,652
UBS	聖書協会世界連盟事務局へ	\$62,500
		合計 \$250,000

※ 支援先国名五十音順

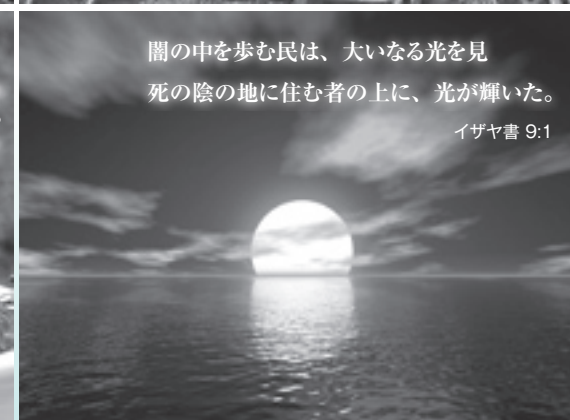
21世紀の今日も、いまだ世界の約半数（28億人）もの人々が、みことばに触れることなく、その一生を終えていきます。聖書に翻訳されていない言語も数多く、また、全世界で大人の5人に1人が字を読むことができません。日本聖書協会と聖書協会世界連盟は、聖書の翻訳・製作・頒布・識字のあらゆる分野から、すべての人が自分の言葉で聖書を読める日の実現を目指して働きを進めてまいります。皆さまのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



あなたの写真が、 みことばの感動を伝えます

日本聖書協会では、みことば写真集（タイトル未定）を2010年秋頃の発行予定で計画しています。“みことば”を、現代に生きる多くの世代の方々に、よりリアルにダイナミックにお届けすべく、あなたの写真にのせて出版いたします。写真を撮るのが趣味の聖書愛読者の方はぜひご応募下さい。

詳細はwebへ→<http://www.bible.or.jp/>



応募要項

● 写真 ◎いずれも加工していないもの

A. デジタル

1. B5判 (182mm×257mm) に300dpiで出力できる“長辺2953ピクセル×短辺2079ピクセル”以上のもの
2. おおよそ目安として、400万画素以上。JPEGなら1MB以上。

B. 紙焼き

- 25.4cm×30.5cm (四つ切り判) 以上
みことば、必要記載事項、コメントと共に、(デジタルはCD-Rで) お送り下さい。
写真が採用された方には、刊行後1冊贈呈いたします。
- 採用・不採用にかかわらず応募作品は返却いたしませんのでご了承下さい。採用させていただく作品の著作権は日本聖書協会に帰属します。
 - ネガ、ポジフィルム、メールへの添付での応募はご遠慮下さい。
 - 印刷物用として改めて高画質のデータをお願いする場合があります。
 - みことばの位置を含めたレイアウト、トリミングなどは日本聖書協会が決定いたします。

● 写真に添えたいみことば

- 書名と訳の種類 新共同訳・口語訳・文語訳 からお選び下さい。
書名・章節番号 「〔書名〕__章(編) __節～__節」という形で書き下さい。
- 他に、コメントを添えたい方は100字までをお願いします。
 - みことばの箇所、範囲は当協会が調整、変更させていただく場合があります。
 - コメントは書籍には部分掲載するか、または掲載しないことがあります。

● 必要記載事項

氏名 性別 郵便番号 住所 電話番号 年齢 職業 e-mailアドレス*
※ご投稿いただいた内容の確認等に使用させていただく場合がありますので、日常的にメールをご活用の方はできるだけご記入下さい。

● 応募締切

2010年3月31日

● 送り先、問い合わせ先

日本聖書協会出版部「みことば写真集採用係」
〒104-0061
東京都中央区銀座4丁目5-1 聖書館ビル
TEL.03(3567)0386 prod@bible.or.jp

みことば写真集 (正式タイトルは未定)

2010年秋発行予定
サイズ未定
オールカラー
写真と聖句100点を掲載!
予価2,000円

デンマーク語聖書 クリスティアンⅢ世聖書 1550年

(ファクシミリ版 1928年)
縦：38cm 横：26cm



最初のデンマーク語全訳聖書。

ドイツでの宗教改革の影響は北欧に及んだ。デンマークにはルター派の思想が速やかに浸透し、1520-40年にかけて宗教改革運動が起こった。

デンマーク語聖書はペデルセン（Christiern Pedersen 1480頃-1554）が最初に翻訳し、1529年に新約聖書が発行され、旧約は1543年に翻訳が完成している。

全訳聖書は、ペデルセンの下訳に基づき、Palladius、Gyldemund、Sinnig、Tidemand、Henricksen、Hemmingsen、MacAlpineらにより、ドイツ語ルター訳を底本として翻訳され、1550年にコペンハーゲンで発行された。

宗教改革を推し進めた、敬虔なルター派であり、生涯学術に熱意を持ち続けたクリスティアンⅢ世（Christian Ⅲ 在1534-59）の名前を略称に使用された聖書として知られている。

世界中のすべての人がみことばに触れることができますように！

日本聖書協会 後援会にご入会ください！

すでに会員の方は、お友達にお勧めください。

聖書は、キリストを信じる者に永遠の命を約束する「命の糧」です。この「命の糧」である聖書を届ける活動は、教会にとって欠くことができない働きであり、「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16：15）というみ教えによって、すべてのクリスチャンが主イエス・キリストから期待されている使命です。日本聖書協会の130年にわたる聖書頒布の働きも、多くの方々のお祈りとご献金によって支えられてまいりました。日本にも、世界にも、いまだ聖書から遠ざけられている多くの人々がいることをぜひ覚えて、お祈りください。そして、これからも聖書をお届けする働きを継続していくため、後援会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

お掛けいただく年会費によって、以下のプログラムが支えられています。

後援会が
支える
3つの
プログラム

●海外聖書製作

貧困や災害、政情不安によって、聖書を製作することが難しい国々の聖書協会に対し、聖書贈呈や資金援助を行っています。



●手話訳聖書製作支援

生まれつき耳の不自由な方々に、日常慣れ親しんでいる言葉である「手話」で聖書を読んでもいただけるよう、「手話訳聖書」ビデオ・DVDの製作を資金面で支えています。



●点字聖書製作

点字聖書1冊（旧・新約聖書34冊、続編6冊が必要）の製作費は1,600円ほどですが、製作費をご献金でまかなうことにより、1冊100円、全巻でも4,000円での頒布を実現しています。



ご入会いただいた方には、会員証と会員バッジを進呈し、年4回発行のニュースレター「かし種」をお届けして、日本聖書協会の働きを詳しくご報告いたします。



会員バッジ（女性用）



（男性用）



ザビエル上陸460年
開国宣教150年

記念キャンペーン
実施中！

- ★綴じ込みハガキで入会申し込みをされ、2009年12月末日までに年会費をご納入いただいた方が対象です。
- ★記念品は十分に用意しておりますが、万一在庫がなくなりました場合には、代替品をお送りいたしますことをご承ください。

★年会費は下記の5種類からお選びいただけます。

A：1,000円 B：3,000円 C：5,000円 D：10,000円 E：50,000円

後援会入会申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

ホームページでも「入会申し込み」をお受けしています。 <http://www.bible.or.jp/collection/col07.html>

Become a member and support the Bible Work

編集後記

長く不安定な天候が続きましたが、八月も終わり近くなつてようやく夏らしい暑さが戻ってきました。それに伴って朝晩ぐっと涼しくなり、秋が近いことを感じます。都会では近ごろ赤とんぼをあまり見かけなくなりました。時代が進むほどに、季節感が失われていくようで少しさびしい気がします。

七月八、九日の日本プロテスタント宣教一五〇周年記念大会には、日本聖書協会事務局として全面的に運営に携わり、会は大成功のうちに幕を閉じました。これほど大きなイベントにしては、準備期間がわずか一年と、たいへん忙しかつたのですが、志を共にする多くの方々と協働でき、得がたい素晴らしい経験となりました。

ソアでは、前号から二回にわたってプロテスタント宣教一五〇年史を振り返りました。後半は特に日本近代史の激動のただ中でキリスト教が翻弄されたことを思わされます。多くの尊い犠牲のもとに築かれた現代の物質的繁栄ですが、社会にはさまざまな病理が露呈しています。

彷徨する社会の苦悩をつぶさに見つづ、キリスト教は人と社会にどう向かい合っていくのでしょうか。「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることで」と、フィリピの信徒に書き送った使徒パウロの言葉を思い起こします。